

第7回 国立市文化芸術推進会議 議事要旨

1. 日 時 平成30年10月15日(月) 19:00～21:00
2. 場 所 国立市役所3階第3会議室
3. 出席者 (委員)
足羽委員、高橋委員、綿引委員、福間委員、今村委員、久保委員、沢辺委員
(欠席委員)
池田委員、渡辺委員、湯本委員
(事務局)
伊形生涯学習課長、青木社会教育・文化財担当主査
4. 傍聴者 0名
5. 議 事 (1) 開 会
(2) 事業立案について
(3) 事務局からの連絡事項
(4) 閉 会
6. 配布資料 資料7-1 文化芸術推進会議委員による立案事業一覧(事前課題回答)
資料7-2 施策・事業案(仮)
資料7-3 施策・事業案(仮)詳細
資料7-4 市の主な事業計画(文化芸術関連)
資料7-5 市内文化芸術イベントマップ
資料7-6 市内文化芸術イベントカレンダー

7. 内 容

■池田議長が欠席のため、文化芸術推進会議規則第3条に基づき足羽副議長において議事進行を進めることを確認した。

■渡辺委員、湯本委員より欠席する旨報告があった。

■福間委員より遅参する旨報告があった。

(1) 開会

■事務局より本日の配布資料及び本日の進め方について説明を行った。

■第6回の議事要旨の報告が行われた。議事録の事前配布が直前となったため、確認期間を1週間程度設けることとなった。

(2) 事業立案について

■事務局より配布7-1～7-6に基づき補足説明を行った。

■説明後、委員より以下の通り質疑・意見等があった。

【足羽副議長】

◇今回配布している資料7-5及び7-6は、立案する事業はどのようなものがあるのかと考えるときに、やはり場所、場所で、どのような文化的な事業が行われていて、それが地域をそれぞれ

れどうつなげていくのかということを知っておくことと、この月はこれ、この月はこれといった文化イベントがはっきりわかると、季節に合わせてメリハリもできて、定着しやすいのではないかと考えている。今回事務局で挙げていただいただけでも25、まだ挙がっていないものもおそらくたくさんあると思うし、できるだけ少ない財産で、効果的なものを上げていくには、こういった地図とカレンダーを見ながら、挙げていただいた事業をイメージしていくと、まとまりやすいかなと思っている。

◇資料7-1に基づき議論を進めていく。基本理念ごとに分けた資料となっているが、あまり必然性がないものもあつたりするため、バランスをとりながら、必要に応じて理念間の移動をさせることも考慮してほしい。

◇事業立案の議論は、今回と次回のため、今回出てこなかったものが次回出てくる可能性もあるかもしれないし、今回のものをまとめて新たな事業にしてみようといった提案もできるかもしれない。

◇最初に、「1.文化と芸術に関する活動にかかわる者の自主性と創造性を尊重し、その積極的な活動の支援を図ること」に関して事業・施策を挙げてくださった方に説明をいただきたい。

【今村委員】

◇施策は広いイメージということだったため、「市内で行われる文化・芸術の情報収集、発信、広報」として挙げさせていただいた。市民が行っているもの、大学が行っているもの、あるいは様々な団体が行っている様々な活動を、やはり何らかの協議会のようなものが一括情報収集し、きちんと発信、広報するという体制をつくったらいいと考えた。

◇ツイッター等のSNSを用いてもいいと思うし、そういう直近のいろいろなイベントについての発信も行いつつ、全体を見渡す。なので、結局は総合的振興ということにつながってくると思うが、何か組織のようなものがあって、そこが一元的にやるのが良いのではないかと考えている。

【久保委員】

◇私は、市民がまずは主体となるという視点が大事だろうと考え、「市民の文化芸術活動参加への促進とアーティスト支援」と挙げさせていただき、これが一体化するような流れを考えていた。

◇後段の事業と連動するが、前回もこの会議で話題になり、私も大事だなと思ったところで挙げた、アーティスト・イン・レジデンスが実現したとき、そのアーティストがただそこで単独で活動するのではなく、その方と市民がどうつながりがつくられていくかという視点が大事だろうと考えており、前回話題にした、国立第二小学校の夏季特別講座をモデルに、学校が物理的にハードの部分があいている期間を利用して、市民や青少年を対象に、アーティストと結ぶ文化芸術講座のようなものがあれば、学校にいる人間として、確実にニーズがあると思っている。

◇実際にこの夏季特別講座は、子供と地域のニーズの高いことから、これを文化芸術政策として進めると、教育現場にとっても、アーティストにとっても、市民にとってもお互いウィン・ウインの関係で進められる事業になるのかなと考えている。

【足羽副議長】

◇現在の活動において、金銭の支払い等はあるのか。

【久保委員】

◇現在は無料で、材料費等の実費だけをいただいている。もし、実際に事業が開始されるのであれば、お金が発生することは当然に考えられる。

【足羽副議長】

◇夏休みに学校を使うことは問題ないのか。

【久保委員】

◇必ず空いている時期があるし、また保護者、地域にとっても、習い事等がある時間は大丈夫だが、それ以外の時間どこに行かせたらいいのかというご家庭もあり、今は小学生に限定しているが、市の事業として行えば、中学生や高校生も入って来れるし、そこにアーティストを入れれば、魅力的な形ができるのかなと思ったところである。

【綿引委員】

◇先日、湯本委員とお会いしお話しする機会があり、お互いを感じていることをお話させていただく。本委員会に参加していて感じることで、やはり事業に視点が行っているのかに対しての供給者サイドの話ばかりをしており、需要者サイドの視点というのが不足しているのではないかと。様々なことを考えるのはとても良いことだが、実際にニーズのないところでいろんなことを立ち上げて、実際にイベント等を実施してみたら全然参加者がいなかったといったことになるという危惧を2人とも持っていた。

◇これは自分自身の今の仕事にもかわりがあり、当社では展覧会を開催しているが、来館者はそこまで多くないのが実情である。なぜかという、恐らく我々が展覧会を開催する、こなすことに力点が行ってしまい、何をしたらお客さん、いわゆる一般の方たちが見に来たいのかという視点が多分足りてないのであろうというのを、新美術館が立川のほうにあり、その中の立ち上げや運営で感じたところである。やはり、我々は供給側ばかりの意識で物を考えておくと、実際にニーズを持っている人たちとの距離がどうしても離れてしまい、全然必要のないことをやってしまう可能性もあるのではないかと感じている。

◇湯本委員はその際に、市民が何かを考えているか、知るべきであるということを感じておっしゃっていた。なので、私の方から言う立場ではないが、湯本委員の意見に私自身も賛同したところであることから、資料にはないがまず意見として言わせていただく。

◇私が挙げた事業としては、美術展を美大を対象に実施してみてもどうかというものである。現在のところ私がしているかぎり、合同の美術展は、国立新美術館で卒業期に五美大展やっているぐらいではないかと思っている。先ほど申し上げたサプライサイドの、「芸術を提供する側に力を与えたいという」意味であれば、やはり発表の場をたくさんつくってあげることが必要なのかなというところで、コンペにする等、どのような形で実現するかは定かではないが、一つの目標となりうるのではないかと。大学を対象にするというのは、供給サイドとしてはたくさんあると思うし、おもしろくなりそういう思いもある。また、もともと自分もそういうことをやってみたいなと思っていたため、載せさせていただいた。

【事務局】

◇湯本委員の事業案をご紹介させていただく。特に1項事業案である「文化芸術の市民アンケート調査」については、綿引委員におっしゃっていただいたとおり、市民がどういったニ

ーズを持っているのか、どういった事業をやってほしいのかというところを、きちんと把握しておく必要があるのではないかというご意見であった。

◇以前、参考で配布した府中市の計画では、文化芸術に関する市民意識調査を、予算をかけて実施していたという経過をお話しさせていただいたが、その中で考案されたとのことであった。

◇前回も申し上げたとおり、国立市で調査というものは、市民意識調査内で大まかに聞いているのみとどまっており、文化芸術に特化したアンケート等は実施していない。

◇一方、市民意識調査とは別に世論調査というものを、数年に一度実施しており、今年度がその実施年度になっている。今回の湯本委員のご提案では、アンケート調査で実情、ニーズを把握した上で基本計画をつくるというふうになっているが、例えば、「市民のニーズや実情に応じた事業を実施する」、という形を基本計画の中に載せておき、それをどういうふうにするのだといったとき、今年度実施する世論調査や、もしくは文化芸術に特化した調査をするのであれば、基本計画の中にそれすらも盛り込んでしまってもいいのではないかと考えている。その上で、市民ニーズを把握し、実情に応じた事業を展開するという、少し抽象的な書き方に留めておき、ニーズを把握した後に、それに応じた事業展開をしていくことも考えられるのではないかという意見をいただいている。

【事務局】

◇渡辺委員に提出いただいている「アーティストバンクの導入」については、前回他市事業の紹介という形で八王子市、小平市で行われている「アーティストバンク」事業について、興味を持っていただき、ぜひそちらを導入してはどうかというような事業を、今回事前課題として提出いただいたところである。

【沢辺委員】

◇私は渡辺意見や久保委員の意見と近いと思っており、「国立市内のアーティストの見える化」を挙げさせていただいた。どういう活動をしている、どういう制作をしている方が国立市にいるのかというのがある程度分かれば、公開するのかもしれないかは別として、そこから付随したアウトリーチ活動の展開や、教育現場、福祉現場からニーズがあった企業や団体、個人等から、そういった方と連携したいといったとき、ビジネスも含めてだと思いが、つながっていく可能性があるのではないかということで、リスト化し、バンクという形があってもいいのではないかと考えた。

◇前回、レジデンスプログラムの話が出たと思うが、大きく考えてみると、空き家や何らかのスペースを活用したいというところとマッチングさせていく上でも、こういったリスト化していくことがあってもいいのかもしれないと思っている。

◇久保委員が先ほど提案された事業は、4項の次世代への継承のところ、子供たちの育成という観点から挙げさせていただいている。

【足羽副議長】

◇前回の議事録見ていると、アートカウンスルについていろいろ突っ込んだ意見がたくさん出ていたなという印象を受けた。

◇それを踏まえてになるが、どこに入れるかは別として、この視点は非常に大事ではないかと思っている。財団のほうでもこれまで様々な取組みが行われてきて、頑張ってください

いる一方、ネットワークを組んだり、今村委員が先ほど挙げた広報、情報を集めたり、アーティストバンクや、そのような情報をどのように役立てるのか、広報も今いろいろなところで分かれていて、国立市に住んでいると、やはりいろいろな広報にばらばらに出てくるので、非常にわかりにくい印象を受けており、そういったものを一体どこがやるのかという課題があると思っている。

◇財団では理事会が承認機関であり、各施設から出てきたものについて考えていただいていると思っているが、こういった文化的なものの横をしっかりとつないで、何かやりたいといったとき、提案しながら一緒に、こことこことをつなげてみたらといった、ファシリテーター的な、ブレンかつ実働も行える機動性の高い実働部隊のようなものはあったほうがいいのかと思っている。

◇イギリスのアートカウンスル等は、政府から少し離れたところで独自に、財源もそこで決めてといったように非常に大きな組織であることから、それほど大きなものではなく、ファシリテーター的で、一方で様々なものを立案して、財団の理事会にも提案ができ、市とも協議ができる、それを1年に何回かというのではなく、常に稼働しながら、情報収集もできて動ける機関はあったほうがいいのかと思います、事業案とさせていただいた。

【足羽副議長】

◇続いて2項の「特色ある文化芸術活動により、まちの魅力を高め、市民生活を活気あるものとし、にぎわいのあふれるまちとする」に関して事業・施策を挙げてくださった方に説明をいただきたい。

【高橋委員】

◇私は、今回財団という立場で委員会に参加しておるため、主に財団絡みの部分を挙げさせていただいた。施策としては、「芸術小ホール支援の充実」、事業としては、「芸術小ホール実施事業の充実」と大きくりにさせていただいたが、実際に芸小ホールではかなりの事業をやっており、それを細かく挙げてもしようがないと思うし、先ほどの話にもあったように、どちらかという財団は、文化芸術に関する実働部隊みたいな位置づけで、これまでやってきているため、それをそのまま今後も充実させていこうではないかというスタンスで挙げている。

◇よって、特に事業レベルを今のように大きくりにしてしまうのか、他の委員から挙げている具体的な事業名を挙げ、その充実や拡充というレベルで記載していくかは、今後調整していく必要があると考えている。

【綿引委員】

◇私は、施策としてはやはり、アウトリーチをもっと充実させる必要があると考えている。やはり市民と芸術文化というものが、距離があるというふうに感じているし、意外と事業でやっていくとなるとアウトリーチは大変なところがある。これについては、本腰を入れてやらないと、なかなか進んでいかないかなと思う部分があるため、他の美術館等でもやっているところがあるが、年2回とかやるのが精いっぱい、自分たちの仕事の中でやっているという感じになっている印象を受ける。

◇国立市内の教諭からアプローチがあり、今お手伝いしているものとして、子供たちに絵を見てもらい、考えてもらい、感じてもらうという取組みを今度やることになっており、それ

をモデルケースとして、我々も見ていって、どんなやり方をするとできるのかなというのを蓄積していきたい。

◇芸術文化は、例えばハンディーキャップのある人や高齢の人にとって、とてもいい刺激になって、いい作用をするのではないかという思いがあるため、一番やりたい事業としてあげさせていただく。

◇また、「Play Me I' m Yours」は、非常にいいイベントだったと思っており、誰もが垣根なく飛び込めるといふ、こういうものが国立のコンパクトであるがゆえに、やる政策・事業であり、本当に国立らしいイベントだなと思っているところである。一過性のものに留めず、「Play Me I' m Yours」以外の形でもいいから、国立音大等と連携して、手軽にできないか検討してはどうか。

◇ドイツだと、駅にピアノがあって、人々が集まってきて、ピアノを弾いていくというのをTVで拝見した。国立市にふさわしいと感じたため、駅舎ができた際にはその中にピアノを置いてみてはどうかとも思ったところである。

【足羽副議長】

◇「Play Me I' m Yours」は非常に評判が良かった。

◇雨の中でも弾けるように工夫されており、細かい気配りが感じられた。

【綿引委員】

◇理由があったので仕方ないとも思うが、あれを2週間で終わらせたというのがもったいないと感じているため、年間のどこかで必ず実施するといったイベント化ができるるととても良いと感じている。

【足羽副議長】

◇今も、団地の中に1台置いてあり、時々行くと弾いている姿を目にする。ああいった常設もいいが、期間を区切ってやるのが良かったし、今後は谷保駅等JRの駅にあるのも良いと思う。

【今村委員】

◇「Play Me I' m Yours」の話について、私もとても興味を持ったし、職業柄、市内のピアノをくまなく回りつつ、楽しませていただき、音大の学生、卒業生、音高の生徒たちも、とても積極的に弾いていて、本当にいいイベントだったと思っている。開催期間後にYouTubeに動画を上げていただき、それも非常に丁寧につくってあって、それに関しても良かったと思っている。

◇私自身は夏に旭通りの商店街がやっている、「Play Me I' m Yours」の小規模版のようなイベントのお手伝いをさせていただき、ミニコンサートを開催したところであるが、夏は暑過ぎて中々弾きに来ないことと、ピアノの状態が悪くなってしまったという反省点がある。よって、こういうイベントは季節がとても大事であり、「Play Me I' m Yours」は桜の季節で、結果的にそれがとてもいい効果をもたらしたと考えている。春は雨も多いため、なかなか雨の中でもできるということは少ないが、テントの中につくっていただいたことで、雨の中でも、その中にみんなが入ることで、かえって親密な感じのものができたのは、よかったなと思う。

◇それに関連し、先ほど配布された資料を見ても文化的な行事や文化祭というのは、大体

10月から11月の秋に集中している。やはり真夏や真冬ではなかなかうまくいかないと思うため、桜の季節にライトアップをしながら、夜、ライトアップを楽しみながら、長時間歩行者天国にし、子供から大人まで楽しめるような夜になれば、文化と芸術が町の中で融合しているといえると思えるため、春の文化・芸術祭みたいなのができたらいいなと思ったところである。

◇その下の芸小ホールの活用促進については、継続的に行う新規プロジェクトであり、例えば市民ミュージカルや体験型アート等があれば良いのではないかと考えている。様々な市の音楽関係の方に伺うと、例えば世田谷区であれば市民合唱団のようなものがあって、そこでコンサートを開催していると聞いたことから、例えば市民ミュージカルのようなものを立ち上げてもいいのではないかと考えている。音頭をとってくれる人は、大学をはじめ、たくさんいると思うし、同じようにダンス、舞台上の体験型アート、あるいは市民ミュージカルをやるときに、美術、大道具みたいなものを子供たちと一緒に作るといった新規プロジェクトを立ち上げる等の活用方法が考えられるのではないかと。

◇前回の会議の際に、子供たちに芸小ホールをもう少し開放していこうという話があったが、授業中の子供たちは多忙でなかなか来られないという話をしたため、こういった活用法もあるかなと考えている。

◇もちろんアウトリーチはすごく大事だと思っているし、アーティストバンクみたいなものもすごくいいと思ったが、一応具体的な事業立案ということで、音楽家という立場から、音楽に特化した事業を立案させていただいた。

【高橋委員】

◇「Play Me I'm Yours」を評価していただき大変ありがたい。今、今村委員がおっしゃったダンスに関する事業については、本日、新聞に掲載されていたと思うが、六小のLOCK・SHOWというダンスチームが、全国大会で賞をとったという記事を読んだ。実は、財団としてもダンスにはかなり力を入れており、今後も特にコンテンポラリーダンスあたりに力を入れていこうと考えている。

◇また、アウトリーチに関しては、昨日、芸小ホールにおいて、佐渡をベースに活動している鼓童という和太鼓の集団による公演があり、満席の状況であった。私も昨日拝見させていただいたが、やはり生の太鼓の音というのは、全然違うというのもあって、今回、この鼓童さんと話をさせていただき、ミート・ザ・アーティストの事業の一環で、国立第八小学校で鼓童さんが生徒に教えてくれるという取組みを行うこととなった。こういった取組みも具体的な事業案として今後挙がってくる可能性がある。

◇今、今村委員がおっしゃったようなことは、財団としても今後頑張っていきたいなという所存である。

【足羽副議長】

◇アーティスト・イン・レジデンスが実現すればその人たちによるアウトリーチもできるだろうし、様々な手法がとれると思う。

【事務局】

◇渡辺委員からもアウトリーチ事業の支援強化という事業案を立案していただいている。

【久保委員】

◇今、議論になった「Play Me I' m Yours」も、参加のしやすさというのが、本当に第一の魅力なのだろうなと感じるところがあった。美術部分でどうしていくか考えたときも、制作側も、享受する側も、参加のしやすさをどうつくるかが重要であると考えている。そこで思ったところが、ビエンナーレは今、彫刻部門で進められているところを、絵画部門の設立を検討してみてもどうかと思っている。

◇これも以前意見として出させていただいているが、彫刻展については、市民投票はされているかと思うが、今回の東京オリンピックのキャラクター投票のように、学校現場にもっと下ろしていただいても良いと思っている。今回、東京オリンピックのキャラクターの投票では、子供が一生懸命見て、いざ発表となったとき、自分たちが選んだキャラクターだと、そこで目の輝きがやはり違っていた。だからこそ、子供たちをはじめ、市民が主体者になるようなとっかかりが必要であろうと思っており、踏み込んだ形での投票や審査等の形でかかわっていただくような取り組みがなされたら、良いと感じているところである。

◇もう一点としては、祭りというのはとても魅力的なイベントであると考えている。市民まつり、天下市、一橋祭とあると思うが、実は私の学校で、5・6年生が高さ4メートル、幅8メートルの壁画を、毎年つくっており、それを今年の市民まつりの際に、駅前に設置できないだろうかと検討したことがあった。残念ながら、安全面や予算の問題等により実現が叶わなかったところであり、市民まつりだからこそ芸術をもっとPRし、祭りと芸術をリンクさせていくというのがこちらの思いであるということをもっとわかっていただく必要があると感じたところである。

【沢辺委員】

◇アウトリーチ事業については、芸小ホールでやっているようなものから、セミプロで市内に住んでいるアーティストと地域がつながっていくようなしなかけを設けてはどうか。そうすれば、持続的にアーティストと市民の関係性ということも構築できていくと思うので、そういったところをオーガナイズできるような形でのアウトリーチ活動というのは、もう少し充実してもいいのではないかと考えたところである。

◇もう一つは、予算をあまりかけずに実施するアートフェア的のようなものを提案する。実際は、もう既実施されている事例もあるかもしれないが、国立は小規模のギャラリー、スペース、個人アトリエがあり、そういった日ごろクローズしていたり、空いているけれども他の団体と連携していないところも、かなりの数あると思っており、そういったところが、一定期間アトリエに来て良いといったことや、何かテーマを決めて、連携し、オープンになってイベントを展開するといったことを実施してみてもどうか。その間は例えば割引で入れるや、無料で入れるや、もしかすると広報につながるのかもしれないが、いろいろな個人でやっている人たちをつなぐ形での、広報、PRということがやれたらいいのではないかなど思っている。期間を設定することは大事だと思うし、それで一体感をつくってはどうかと考えている。

◇先ほどの「Play Me I' m Yours」話で思い出したのが、10年程前、私が学生だった当時に、パワージャズというイベントを開催したことがあった。この中で、例えばスターバックスの前や、文流の庭の前、駅前等の何か所かに場所を設定して、路上ライブしたい人って募った。すると、国音がある影響なのかもしれないが、学生さんが口コミで広げてくれて、結

構人が集まったという経過があった。

◇路上ライブは、公道等でやる場合は、申請しないとできなかったように記憶しているし、アーティストと地権者というか、それをつなぐのが結構大変だと思う。

◇なので、ある何曜日の何時は、あるエリアは路上ライブをしていいという形にしておいて、路上ライブをしたい人たちを、例えば4月とか5月に一斉に応募してもらおう。そうすると路上ライブをしたい人たちのアーティストのストックみたいなのができて、音源なんかも送っておいてもらっておけば、マッチングも後々可能になるし、大きな予算を掛けずに実施が可能になるのではないかな。

◇印象的だったのは、「Play Me I' m Yours」もある意味路上ライブに近いものがあるかと思うが、市民の方をはじめ、続けてほしい、やってもらいたいという声が多かったのと、それが消費や経済活動に結びついたということもあったため、そういった路上ライブがしやすい仕組みを、年に1回よりもう少し定期的に、春夏秋冬開催できる仕組みをつくっておくのはどうかと考えたところである。

【綿引委員】

◇沢辺委員のフォローになるかもしれないし、足を引っ張る形になるかもしれないが、立川に「いったい音楽まつり」というのが、5月ごろ開催されていた記憶がある。まだ5年目ぐらいだと思ったが、毎年参加希望者が増えているそうである。そのイベントは多分、きちんとしたブースをつくって、そこで開催されており、市内の何方所かに分かれているらしいが、現在、300グループぐらいが出演しており、潜在的にはもっとあるだろうと言われている。

◇よって、仕組みだけつくっておけば、本当にやりたい人というのは、たくさんいると思うし、私は後段で祭りの話を挙げているが、国立のイベントで一番素晴らしいと思っているのはLINKくにたちである。道路を歩行者天国にして、駅伝のように走るリレーマラソンが主な内容だったと思うが、とても盛り上がっているように見受けられる。よって、行政がうまくできることをやってくれれば、できるイベントというのは結構あるのではないかな。逆にこのようなイベントは民間で実施するにはかなりのハードルがあるとも思う。

◇アイデアは我々がそうやってつくるにしても、行政が後ろについているわけで、それをきちんと開催することによって、すごくいいイベントに持っていける可能性があると思っている。立川はそういう形で、今、財団や市がバックアップして、2日間にわたって開催しているが、見に来る人も非常に多いという話も聞くため、二番煎じではなく、また違う切り口があれば、それなりのよさもあると思うし、国立らしい、コンパクトであるがゆえに、行政が後ろについてあげることができて、その中でできるイベントになると良いと思っている。

【足羽副議長】

◇私自身は、金沢のジャズフェスティバルの委員をやっているが、あそこはプロを呼んだりしているが、一番人気なのは小学生が演奏するジャズイベントである。国立市で開催するのであれば、路上ライブで、手間暇をあまりかけずに、立川とも少し違って、それで老若男女、女性だけのバンドとか、昔バンドをやっていた年配の方々を混ぜて開催すると非常におもしろくなるのではないかな。

【綿引委員】

◇LINKくにたちのよさは、一般の人が参加するところであるため、同じような形で、箱

だけつくってあげて、みんなが入り込める、参加できるというイベントのほうが盛り上がる
と考える。

【沢辺委員】

◇箱をつくるというのは、私もとても大事だと思っていて、インパクトが非常に大きいもの
というのが重要だと思っている。一方、国立の町を考えたとき、大規模なセットもないし、
国立のよさは、景観というか、この町の小さい商店街とか、非常に細かい、細々としている
もののような気がしており、日常の中に芸術がどう溶け込むかということ考えた際には、
大きな形というよりは路上で何かちょっとやっているぐらいのイベントが定期的開催されて
いる方が良い。

【綿引委員】

◇今村委員が先ほどご紹介していただいた「Play Me I' m Yours」の延長イベントのような
イメージか。

【沢辺委員】

◇そのとおりである。「Play Me I' m Yours」だと、ピアノを実際に設置するとか、場所の検
討等もあるだろうし、手間暇をかけて実施しなければならないが、ああいったものは年に1回
開催して、インパクトを残す、一方で今回提案させていただいたものは、もう少し日常と近
いようなものとしてイメージしているところである。

【今村委員】

◇ピアノに関しては、地元の楽器屋さんにご協力いただきながら、今、中古のピアノはたく
さんあり、なかなか買い手がつかないという話も聞くし、ピアノを習っている子どもたちは、
電子ピアノがほとんどであることから、アップライトピアノの中古で、みんなが弾けるもの
があるというのは楽しいことだと思う。「Play Me I' m Yours」のように、10カ所も要らな
いと思うが、ピアノは屋根のあるところにあるのが基本なため、ジャズでもいろんな形態が
あるので、そういう編成のものを応募してもらおうとか、そうじゃないところは自分で持って
こられる楽器で応募してもらおうとか。そういうふうに場所の特性に応じた募集というのは、
かけられると思います。具体的には。

【足羽副議長】

◇個人的には、雨の中でぼろぼろって弾いている感じが非常に良かった、そのため今回配布
していただいた資料を見ると、5月は特に実施しているイベントがないようなので、そのよ
うな時期にあってもよいと思う。

【今村委員】

◇普段はパブリックなものとして使っているが、土曜日の夕方ぐらいの時間等、みんなが出
かけやすいときには、1時間だけライブをする枠みたいなものを設けてといった形が良いと
思う。最初はキックオフ企画でコンサートのようなものを開催しても、それっきりになっち
ゃったりすることが多いこともある。

【足羽副議長】

◇先ほどビエンナーレに絵画部門を設置してはどうかといった話が出たが、私も賛同する。
◇なので、ビエンナーレについては、今年は絵画部門だけや、次回はダンスをはじめとする
パフォーマティブアーティストだけに特化したビエンナーレや、あるいは詩や文学や音楽を

合わせたビエンナーレといったように、アーツを広く捉えてもらったうえで、実施を検討してもらいたい。1回ずつ趣向を変え、それが種になって、また次のものが醸成してできいくという循環であれば今後も開催してもらいたいと思ったところである。

◇他の意見に関連して言えば、桜まつりのライトアップがすごくもったいないと思っており、ライトアップされた桜を見ながら歩くだけではなく、先ほどもいろいろな案が出ていたが、以前渡辺委員が、国立は盆踊りが盛んで、踊りたい人たちがいるとおっしゃっていたため、道をブロックできれば、桜踊りのようなものを開催できるのではないかと。そういった国立らしい風情のある日本伝統の踊りがあり、一方ではヒップホップや、コンテンポラリーダンスがあるといったように、メリハリがあるといいと思っている。

◇天下市が一橋祭との同日開催でなくなったが、個人的にはもったいないと思っており、天下市は来て、物を買って、食べて、帰るだけだと、大学通りだけしか立ち寄ってもらえない。せっかくあれだけ人が来るのであれば、それこそアートギャラリーも開いてもらったり、ストリートパフォーマンスを南部のほうで行ってもらおうとか、もう少し連携した取組みを検討してもらいたい。

◇ギャラリーについても、今、何軒かで連携した取組みは行われているが、まだまだ絶対数が不足しているため人が来づらいことから、天下市をうまく合わせていけばと感じたところである。

◇私のほうで提案させてもらったものとしては、「国立市民が誇れる文化芸術施設を充実させる」ということで、芸小ホールは非常に活躍されていて素晴らしいと思うし、たましん美術館も駅のそばで立地していて興味深い企画をなさっているが、コンパクトながらも国立として目を引くのがあるといいと思っていたことから、国立市立美術館を持つてはどうかというものである。

◇この美術館は建物を見に来てもらうことを前提としており、展示物は1点か数点で十分ではないかと思っている。今、幾つか所蔵しているものがあれば、それを展示したり、あるいはほかの美術館から借りてきたりして、それらを用い、アウトリーチ、講演会、音楽会等を開催してはどうか。展示物は有名なものだけではなく、例えばしょうがいしゃの方が描いた絵、石棒といった様々なものが考えられるし、あまり予算かけずに展開できるのではないかと考えているところである。

◇2つ目に、「特色ある芸術活動を起こす」ということで、これは以前も申し上げたが、詩の力に非常に関心があり、国立市は詩の賞等を色々と設けているが、やはり朗読しながら、音楽と合わせたり、絵とも合わせたりすることで、詩の広がりを示すことができればいいのではないかと考えた。前回の議事録を見ると、市では「くにたち文学賞」を設けているそうだが、これはどのような取組みなのか。

【事務局】

◇「くにたち文学賞」は、市長室が所管しており、「日常とへいわ」をテーマにしたエッセイを募集し、選考を行い、優秀作品等を選出している事業である。

【足羽副議長】

◇詩の部分と文学の部分に合わせて、国立らしい、コンパクトだけどインパクトのあるものという形で新賞を設立できないかなと思ひ、提案させていただいた。

【福間委員】

◇アウトリーチについては、市民の関心というか、参加というのはどういうふうにやれるのかを検討することが重要ではないかと考えている。ジャズバーの話や路上ライブの話聞いていて、国立はもう結構ジャズのライブハウスが多くて、多過ぎて逆にみんなどこも経営が厳しいという話を聞いたことがある。もしかすると、路上ライブのような取組みが充実すれば、それでいいのかもしれないが、やっぱりどんなライブハウスでもプロやセミプロに近い人が出演するため、そういう人と普通の人や子供たちの演奏と一緒に並ぶような場所というのがつくれば意味があるかなとも思うが、アウトリーチという発想自体が、もしかしたら専門家が行って、そういうことがそこまでわかっていないところへ行って、何かやるという形になると、結局は受けるほうも、学校も多忙で大変というのものもあるぐらいであるため、なかなか展開していくのが難しいのではという印象を受けた。

◇くにたち文学賞でいえば、特に国立と縁がなくはないけど、結局国立の市民の活動と関係ないところで、選者が選び、そういう作品が選出されており、こういうふうな小さな賞が多過ぎる印象もあり、あまり話題になるということもなかなかない気がしている。

◇詩に関連した話として、国立本店というところで、くにたちコミュニティ・リーディングというものを始めたところである。私自身が関わっているが、私とゲストの詩人が来て、その人たちがトークをしたり、あるいは自分たちの朗読をしたりする一方で、参加者みんなにオープンマイクで5分間詩の発表を行ってもらったところ非常に良かった。詩の初心者や、場合によっては詩はまだ書けないが、自分の最近起こったことを話したいとか、特にしょうがいのある方は、みんなに訴えたい言葉を持っており、非常にイベント自体が盛り上がっていた。

◇送り手側の問題について言えば、送り手側がどこかできちんと、市民や子供たちと並ぶ場所に立てるかどうかが、つまり覚悟を持ってやってもらえるかどうか、一つ勝負かなという気がしたところである。

◇もう一つとして、一つの音楽でも、例えば路上ライブが同時に何か所かであると、ここはジャズ、ここはロックといったカテゴリーになるかもしれないが、以前、国立のライブハウス3軒が、共同してチケットを出してイベントを行ったことがあったが、聞きに行くだけでも大変だった。やはり、3つに分かれてやっていると、その3つを全部聞くことはできないから、みんな少しずつ行ったりしてといったことが起こる。なので、もしかしたらイベントそのものはあまり厚くつくらないほうが、参加しやすく、美術も好きだし、音楽も好きだし、という人たち、一緒に動いてもらわなきゃいけないけど、同時にやってしまうというよりは、割と一つ一つきちんと区別して整理した状態でやったほうが、参加しやすいし、人も入っていきやすいことに繋がるのではないかな。

◇例えばイベントをやると、それをある程度参加したというためには、時間も労力も要るといった状態になるので、そうじゃなくても行けるような感じになると良いのではないかなと思ったところである。

◇そうすると、考え方として、ビエンナーレ等賞を設けて表現の水準を考えて、レベルを考えていくことになるよりは、専門性と普通の人たちとの垣根を払う、あるいは並べるような形が大事だと思うし、それは意識の問題だけで結構やれることかなという気もしている。

【足羽副議長】

◇続いて3項「文化芸術活動を担う市内外のさまざまな主体が連携し、及び協働し、文化と芸術を通じた人々の交流を促進することにより、開かれたまちとすること」について意見をいただきたい。

【綿引委員】

◇先ほどから祭りの話が出ているが、私自身、このメンバーが集まったとき、芸術文化の「文化」のところで、やはりお祭りというのが一番大きい力になるのではないかと思っている。どこの地域にもお祭りはあると思うが、国立のお祭りは、どちらかというと露天が出て、ぐるっと回っておしまいといった感じになっているのが少し寂しくもある。

◇私の理想はねぶた祭りであり、ねぶたのよさというのは、地元の人もハネトになるし、外から来た人も衣装を貸してもらおうとハネトになれて、一緒に楽しめる場所である。そんな感じのものがあると、すごく地元愛とかそういうものができてきて、良いのではないかと思った。

◇この町自体が、一橋ができるときにできた北側と、南側という谷保の古い町とが一緒になっている町なので、その関連性が実は希薄であり、八王子のような古い町とは少し違うところがあることから、そういったもので地元愛を醸成していければいいなと感じたところである。ちなみに八王子祭りは、一時期さまざまなことがあったが、最近では、また参加者が増えているという話を聞いていることから、やりたい人はたくさんいるという気もしており、提案させていただく。

【足羽副議長】

◇渡辺委員の提案は、本田家を中心とした交流事業の展開ということだが補足説明はあるか。

【事務局】

◇他市とのつながりというところにも言及されていることから、3項の「人々の交流を促進することにより」というところに着目されての提案だと考えている。

【今村委員】

◇私はここで再度、アーティスト・イン・レジデンスについて検討し、提案させていただいた。かなり具体的に富士見台団地を活用した、さまざまな分野の芸術家のための拠点づくりをしてはどうかと考えている。これまで議論してきたように音楽、美術等にかかわらず、若い世代でコラボレーションができるようになると未来志向な感じのアーティスト・イン・レジデンスができるのではないかと考えたところである。

◇音楽面から言わせていただくと、音楽をするにはどうしても防音室が必要で、ある程度音楽の枠は限られてくると思うが、例えば2年間程度暮らしてもらいつつ、その成果発表を芸小ホール等でしたりするとともに、アーティストバンクに登録して、アウトリーチにも行ったりする等して、若い世代が着実にキャリアを築いていけて、キャリア支援にもなるような活動ができるといいのではないかと考えているところである。

◇多摩地域には教育機関がたくさんあり、小学校から大学まで幅広い世代の学校があるので、大学は大学だけではなく、小学生と大学生といったように、いろいろな世代の子供たちが一緒にできるようなことを、アーティスト・イン・レジデンスに絡めて考えられたら、楽しいかなと思っている。例えば、先ほどアウトリーチは難しいところもあるという意見もあった

が、小学校に行くときのプログラムと、中学校に行くときのプログラムと、介護施設に行くときのプログラムでは、全く違うプログラムを用意するというのもお客様の違いを学ぶということで非常に勉強になることである。よって、音大だけではなく、多摩地域の様々学校が連携し、キャリア支援と連携しながら様々なことができるのではないかと考え、「多摩地域の教育機関との連携、協働」を提案させていただいた。

【沢辺委員】

◇今の今村委員や福間委員の意見も踏まえ、私の方で提案する事業について説明させていただく。アーティストや芸術家が何らかの施設に行き、啓蒙的にやってしまうようなことはあまり良い結果をもたらさないこともあるため、この施設だったらこういう雰囲気、こういうアーティストといったように、コンサルタントしてくれる方がいて、きちんとハブになるところが非常に大事だと思っている。

◇このハブの機関が、最初のアーティストバンクのリサーチをしたり、アウトリーチ活動でアーティストと機関をつないだり、そういったオーガナイザーのような形で動く人たちがいる、アーティストがたまるような場所があることが理想である。アートカウンスルみたいな話も出てきていると思うが、拠点になる場所は、空間として必要ではないかなと感じていて、それがもしかしたらアーティスト・イン・レジデンスをやっている隣にあるオフィスかもしれないし、芸小の中にあるのかもしれないが、そういったネットワークをきちんと具体的につないでいくような場所で、そこに行くといくらかのアーティストを紹介してもらえたり、アーティストにチャンスを紹介してくれるというところがあることによって、交流が生まれてくると感じ、「文化芸術の交流の促進」ということにおいては必要なのではないかと考えたところである。

◇国際交流に関しては、こんなことができたらいいのではないかというイメージで提案させていただく。今、国立市は北秋田市とルッカ市というところと文化交流をして、これからもどんどんそういったネットワークが広がっていくと思っているが、前回の会議でも述べさせていただいたが、海外の芸術機関、文化機関とネットワークをつくって行って、そういったところにアプローチしたいアーティストにはつなぎ役になってくれるとか、そういった形での文化芸術交流ができれば、楽しいのではないかと考えたところと、アーティストにとっては、当然キャリア支援ということが前提にあるとも思うが、そのようなことがあれば国立に住むアーティストが必然的に増えてくることにつながってくるのかなと思っている。

◇例えばルッカであればプッチーニをはじめ、いろいろ音楽のコンテンツがあるので、そういったところと国音の人たちが連携してフェスティバルをやるとか、そういったこともできるのではないかと思い「文化芸術の交流、市内外、国内外との交流」ということを提案させていただいた。

【福間委員】

◇前回の会議においてもレジデンスの議論を行い、その後も感じたこととしては、やはりレジデンス事業は、無理に展開しない方が良いのではないかと。私は当初、国立市で誰かがここに住んでもらって、芸術家が何かやっていくという、そのことに対する負担に対して、国立という範囲だけで何かすることが、何かうまくいかないなという気がしていると申し上げた。また、例えば一人のアーティスト・イン・レジデンスを呼ぶ費用で、何人もの人に、年に何

回もワークショップで来てもらうといったことが出来るため、無理にレジデンスをやるよりは、そういう細かいものを、一人の詩人に年に4回ここに来てもらってワークショップをやってもらうとか、そういうことでもいいし、もっと具体的に言えば、よそのレジデンスにいる人にここに来てもらって、何かやってもらうということでも良いのではないかと。

◇このレジデンス事業というのは、もう少し大きな範囲と予算的余裕の中で、かつ今も話が出ているが、キャリア支援みたいなことも考えると、芸術家がここにおいて、芸術家として成長して、経済的にある程度自立していけるようなことまでを応援する余裕は国立市にはないと思うし、それで芸術家として一人立ちできるようになるとは、なかなか思えなかった。

◇例えば、ワークショップをやってもらって、それに対しての講師料で2万円、3万円といったことはあると思う。ただ、レジデンスのイメージもあると思うが、外国でやっているような、1年間ここにおいてもらって、それで自由に表現活動してもらおうということに対し、国立は狭いなという気もしているし、そういうことをやるのであれば、もう少し広げて多摩全体といったレベルで受け入れるべきなのではないかという気がしている。

◇レジデンスについては、私自身、最初どういうものかわかっていない状況のなかで、話を聞き、池田議長が言われた他市連携の難しさといった話も鑑みたうえで、それであれば本当に国立だけで簡単にやれることをスパッとやる方が良い気もしている。レジデンスは少し難しいというか、それをやるのであれば、そのぐらいの費用負担で、もっと細かいことを様々な展開していけるのではないかと。

【足羽副議長】

◇レジデンスも各々が様々なイメージを持っていて、例えば、費用をかけて1人に1年いてもらうというのと、安い住宅だけ提供して住んでもらうといった形でも異なっている。そこら辺は、同じ言葉で全部言えないため、ある程度整理が必要で、おっしゃるとおりできる範囲で、無理なくやるというのが一番肝要であると思う。

◇私の提案した施策の「内外のクリエイターの市内での活動を支援する」については、これまで委員各位に議論していただいていると同様な考え方である。それに合わせて、アートカウンシル的なところが、情報をできるだけわかりやすく発信していければよいと考えている。

◇続いての、「海外、文化芸術を通じた具体的な企画を立て、交流を図る」については、下部に具体的な事業案を提案している。一方では伝統文化的なものをやりながら、もう一方ではコンテンポラルな文化活動を展開すると、メリ張りが利いていいのではないかと考えている。

◇先ほど福間委員がおっしゃっていたが、ジャズのライブハウス等が市内にはたくさんあり、私自身通っていた時期があるが、やはり敷居が高く、小学生は入れないし、すごくおもしろいのもったいないと感じたことがあったため、外へ出てきてやってもらうというところをうまく使い分けられないかと感じたところである。

◇詩については、先ほどの活動のようにきめ細やかに行っていくことが非常に素晴らしいと思ったところである。そのうえで、対外的にという部分で、賞金はつけるかどうかはわからないが公的な選出のようなものも出来るとなお良いと考える。

◇一般の方々が文化芸術施設に行くことと、アーティストに施設から出てきて来てもらうことと、その中間で祭りのような何かをやるといったイメージで良いのではないかと。

◇最後に4項の「文化や芸術を楽しむ大切にする気持ちと、新たに価値をつくり出す喜びを

育む環境を整え、次世代に継承すること」について意見をいただきたい。

【高橋委員】

◇この項に関しては、主に財団が現在管理させていただいている郷土文化館を中心に書かせていただいた。施策としては「文化財に親しむ機会の充実」ということで、郷土文化館として文化、歴史について発信するため積極的に市内に出ていって、そういう機会を市民の方に得てもらうということを一つ提案させていただく。

◇それから、「文化芸術に対する支援環境の整備」ということで、これはさっきのレジデンスとかそういうのも全て包含した施策全体像という形になるかと思う。

◇事業レベルとしては、「郷土文化館と古民家、さとのいえの連携」ということで、ついこの間も市民の方に言われたところであるが、古民家、さとのいえ、城山公園は市の組織でいうと縦割りで、管理しているところが全て異なっている。ただし、来る方にとってみると、みんなあそこは一体のものだと思っているため、これは市側への希望にもなるが、あそこはやはり連携をして、いろいろな事業展開をしていくべきではないかと考えている。

◇それから郷土文化館としては、現在も実施している出前講座であるとか、学校へ積極的に出ていって、歴史をはじめとした文化の話をさせていただくということ、郷土文化館所蔵している歴史的あるいは文化的な資料の収集、整理、それらの情報提供を推進していくということが非常に重要な事業ではないかと考えている。

◇また、ハード面では、現在、芸小、郷土文化館といった施設が老朽化してきているということもあるため、ハード面のことについても計画の中で謳っていただければと思うし、先ほど足羽先生がおっしゃったように、美術館等もここに加えてもいいかもしれないというのが、一つ思いとしてはある。

【久保委員】

◇私は、施策として「子供及び青少年へ、次世代につなぐ文化芸術のまちづくりの推進」を提案させていただく。具体的な事業化としては、例えば校舎を改装する学校の建築またはそのモニュメントの設置を含めて、それを小中学生が選ぶといったもので、フィレンツェのブルネレスキとギベルティの扉のコンテストのように、自分たちでつくるという意識を小さいときから形成させられると、国立という町が本当に文化の町、自分たちでつくっていく町という意識を醸成させていけるのではないかと考えている。

【綿引委員】

◇私は、「文化、芸術に関する教養講座の充実」を提案させていただく。現在、私どもと、くにたち文化・スポーツ振興財団と一緒に美術講座を1回やらせていただいております、公民館でも実施がされていたように記憶している。また、駅前のビルのところにNHK学園が来て、様々な講座を開催しているというのもあると思っている。このように、様々な講座がある中で、それらが体系だっていなかったり、ばらばらである現状で、そういうものの幅を広げるか、深めてみてはどうか。この講座というものは、文化芸術の世界の入り口として非常にハードルが低いと思っております、そういうものをたくさん提供してあげることによって、そこから例えば今度は自分がプレーヤーになってみようとか、いろいろなことが出てくると思うため、入口の部分を充実させたり、幅を広げてあげることが大切なのではないかと思っております。

【今村委員】

◇私は、「文化財の保存、活用と資料調査等の推進」を提案させていただく。実際、本田家住宅の復元等にもあるように、ある程度プランやプロジェクトみたいなものが既に立っているのではないかと思うが、それを文化ということに集約して、きちんと計画を立ててやっていくことが大事だろうと考えたところである。皆さんに楽しんでいただくにしても、文化財のようなものは、それがきちんと整備されていることとか、皆さんに見ていただくような状態になっているとか、それを維持するといったことがとても大切であり、そういう体制を整えていくことが基本的なスタンスとしてまず大切なことだろうと考えている。

【沢辺委員】

◇私は、「子供たちへの文化芸術教育の拡充：次代の育成」を提案させていただく。前回の会議のときに二松クラブの話で印象的だったのが、この二松クラブで、アーティストの人たちが子供に教えたりした際に、その場限りとならず、その先生が例えばギャラリーで展示したときに、自分の知っている先生だから行ってみたいといったつながりができるし、親子で一緒にという形であれば、芸術文化に入りやすくなってくると思ったため、既に二松クラブとい展開があるのであれば、その拡充やアウトリーチ活動との連携というところが考えられるのではないかと思ったところである。

【足羽副議長】

◇私の提案は各委員の提案と重なっている部分が非常に多いため、申し上げることは特にはないと思っているが、一つだけ付け加えると、学校教育は学校教育と分ける部分と、分けなくて全ての世代の人たちが参加できるようなものも入っているほうがより良いと考える。ターゲットを絞ってやる部分と、さっきもお祭りのような考え方も良いと思うしみんなが参加できる、けどちょっと習ってねみたいなのがあって、そこで国立で持っているものを継承したり、楽しみ合うというのもいいのではないかと思ったところである。

◇先ほどの1点物の美術館について補足させていただくと、何を美として捉えるのかというのは、国立の矜持であるとも思うし、それが場合によってはカボチャーつかもしれなければ、いろいろなことを考えながら提案できていくのが良いのかなと思い、ただ、カボチャー一つで見に来てはくれないので、美術館を見に来てくださいというのもいいと思ったところである。

【高橋委員】

◇冒頭、湯本委員からのアンケート調査の話を事務局側から案内いただいたと思うが、予算を伴うことでもあるし、時間のこともあると思うが、湯本委員がおっしゃるように、府中の計画を見た際に、それぞれの施策ごとにアンケート調査の結果が出ていて、非常に現状把握するにはわかりやすいかなと思ったところである。よって、市民意識調査や統計データ等出ているものがあるはずなので、今後計画をつくっていくときに極力、データとして掲載できるものがあれば載せておいたほうがいいのではないかな。

【事務局】

◇そのように対応する。

【足羽副議長】

◇データ等があると、もう少し話も進むかもしれないし、これから事業選定に入る際に、市民からの要望はないがこれは大事だというのものもあるかもしれないし、ないから余計にという

のもあるかもしれない。

【福間委員】

◇調査については、考え方をどこかである程度選択する必要があるのではないかと。ニーズと漠然と言われても、こういうものが欲しいというのは、簡単には出てこないかもしれない。我々も文化と芸術についてここで考えているが、市民の人たちは文化や芸術に対してどういう感じ方、考え方をしているのかというのを知ることができればとても意味があると思っている。

◇結局のところは、小中学生とかそういう世代にどう働きかけるかといったところが一番重要になってくると思っているため、一般の市民の人々に対してというよりは、中学生ぐらいで今なかなか、こういうことをしたいとか、こういう夢を持つとか、なかなか出にくくなっているところに、我々も関わり、例えば本の好きな子、芸術や文化に関心がある子が育っていくということに対して支援をするといったことが良いのではないかと。よって、例えば中学2年生、3年生が人生や未来に対してのイメージを持てるように、そういったものが探れるようなアンケートだと良いと思う。

【足羽副議長】

◇一般的に出すものと、ターゲットを決めて出すものに分けるということか。

【福間委員】

◇子どもたちが望んでいるようなものは把握しておきたい。

【綿引委員】

◇文化や芸術というのは、一時的なイベントではなく、もっと長い話が基本的な考えであるため、やっぱりどうしてもイベント的な方向に流れてしまうが、そうではなく、土壌としてどんなものをつくるかというのが一番大事だと思っている。この着眼点は忘れてはいけないんだらうなど、戒めとして自分も持たなければいけないと思ったところである。

◇土壌が育まれれば国立は、こういう祭りがある町、こういう文化がある町ということで、そこがもっと盛り上がってくるとか、住みやすい町になってきたりとか、ということも起こる気がする。今の世の中は、特にこう言った議論をしていると、イベント的な要素や内容が多くなり、もっと言えば経済的なものの要素がすごく強くなってしまったりするため、そこは逆に外して、なるべく考えたほうが良いのではないかと。

【福間委員】

◇例えば、本の好きな子や音楽が好きな子は、幾らでもCDや本が借りられる場所があるといいということで、図書館という場所があると思うが、それだけではない別の働きかけができる力を持ったものがあるといいのではないかと気がしている。

◇今、総合芸術高校というところがあるが、ああいうところを選択して入っていく子どもは、比較的家庭環境等で恵まれているというか、何かきっかけをつくってもらっていると思うが、そういうのをもっと誰でも、というかもっと広いところで、そういうふうに出会えるような形になっていくようになると良い。今の社会の中で、中学3年生のときに、芸術をやりたいというふうを選択できる子は大事なものだという気がする。

◇もちろん、芸術を選択してくれなくてもいいが、今本当に、大学まで来ても何をしたいか、全然わからないみたいな人が多くなってきているように思う。そういうことに対して、ただ

文化芸術をやるというよりも、人として豊かな生き方というところへアピールするような、あるいはそれが用意できるような形になるのが良いのではないかと感じた。

◇4項は、結局は文化を大事にする姿勢を大人たちが持っていて、そして子供たちはそれから何かを受け取っていくということだと思っている。よって、文化財を大事にするといった視点や子供たちや次世代につなげていくという視点は、イベントをやるというよりは、何かもっと日常的に触れているイメージなのではないかと思ったところである。

【足羽副議長】

◇たくさんイベントやってもしょうがないとも思うが、お祭り等1年に1度やるとすっきりするといったように、それを目標にしている人々もいる。なので、セレクトティブに、目的が際立ったイベントを大小問わず幾つか開催し、それがどういうふうに浸透していくのか、そのフォローアップのようなものも含めて検討しておく方が良いのではないかと。経済目線で考えるのは良くないと切り捨ててしまうのではなく、バランスよく組み合わせることが肝要であると思う。例えば、高校2年生から芸術を選んだら、あなたは絶対食べていけないとレッテルを貼って、人生何もないようにさせるのはかわいそうだし、でもこうやったら、こういうふうなことで何かの手応えがあってというものを示しあげるのも必要なのではないかと。また、芸術家にならなくても、自分の仕事もしながら、芸術も楽しみながら、活性化させていくといったこともできるとしている。

【事務局】

◇次回は、ご提案いただいた施策、事業を整理させていただき、事業一覧としてお示し、それについて議論があればさらに検討を進めてほしい。

◇時間があれば、別の議題について議論もさせていただこうと考えている。

◇次回は11月12日の開催を予定している。